

受験番号	
------	--

※答えはすべて解答用紙に書きなさい。 ※選んで答える問題は記号で答えなさい。
 ※特にことわりのないかぎり、句読点やかきかっちはすべて字数にふくみます。
 ※設問の都合上、本文に一部省略があります。

一 次の【本文】と、それに続く【マンガ】を読んで、後の問いに答えなさい。

【本文】

A 私は、おつき合いのある人に「友だち」という言葉をできるだけ使わないようにしています。どんな人でも基本的には「知り合い」であり、それ以上でもそれ以下でもありません。

なぜそうしていると思いますか。その理由は、私が友だち・友人といった言葉、あるいは概念がとても苦手だからです。まず、そんなところからお話を始めましょう。

友だちという言葉が苦手な第一の理由は、「友だち」という言葉にひそむ順番をつける(つけられる)ような感覚がイヤだからです。私たちは、だれかを「友だち」とよぶとき、たいていはほかの人と「友だち」を区別しています。

区別の基準はそれぞれあると思いますが、基本的には、「友だち」は「そのほか」の人より上に位置つけられるでしょう。「親友」であれば、なおさらです。

だれかに「友だち」や「親友」という言葉を使うと、それだけで、人を順序づけているような感覚になり、それが私を重い気持ちにさせるのです。

順序づけは、なにも私だけがするわけではありません。「友だち」と「そのほか」の人を分けた隣間から、多くの人は人間関係になんらかの序列をつけています。

そのため、友だち関係を意識しすぎると、「ほかの人から見て、私はどのくらいの位置にいるのだろう」などと、余計なことを考えたりもするのです。

『友だち』なのに、こんなこともしてくれないなんて

という不満も同じような理由から生じます。

私たちは、「友だち」に対して、ほかの人よりも特別なものをもたらしてくれるだろうとついつい期待してしまいます。だからこそ、特別扱いしてくれない友だちに不満や不安を抱いてしまうのです。

私は、²ここにあげたようなことを考えるのがそもそも好きではないので、「友だち」という言葉が苦手です。

友だちという言葉が苦手なもうひとつの理由は、その言葉の「あいまいさ」にあります。「友だち」というつながりのあり方は、よくよく考えると、とてもつかみづらいものです。

「友だちとはどんな存在ですか」と私が教える学生にたずねると、「気を遣わなくていい」「中身を隠さなくてよい」「悩みを打ち明けられる」「合理的ではない」という答えが返ってきました。

ここから、友だちとは「気を遣わずに話することができる」「困ったときに、利害と関係なく手をさしのべてくれる」関係だと考えられます。

これらの要素は、だれかと友だちになる、あるいは、友だちでありつつけるには、たしかに重要な気がします。

その一方で、だれかと友だちになる、あるいは、友だちでありつつけるにあたっては、右の条件が必須だとは言いきれません。むしろ、そういわれると重苦しいと感じる人もいるでしょう。

B 私たち人間には、かならずといってよほど「ゆらぎ」があります。

100%よい人も、悪い人もいませんし、つねに明るく人もいません。よさ・悪さ、明るさ・暗さが同居するのが人間です。

同じように、相手に対してつねに手をさしのべられる人はいません。

あなたが、まったく気を遣うことなく話しかけられる人もいないでしょう。

ある場面で手をさしのべられるかどうか、気を遣うかどうかは、個々人のおかれた状況や感覚に左右されるのです。

だからこそ、あなたが友だちだと思っていた人が、あなたのほしい支援をしてくれなかった、あるいは、よそよそしい感じになったからといって、³たちどころに「友だちではなくなる」ということはありません。

ゆえに、友だちとの間には、「困っているのに助けてくれなかった」「友だちなのになんとなく話をしづらい」といった不満や悩みが生じることもあります。

C では、⁴「友だち」とはいったいなんなのでしょう。究極的には「おたがいの感覚をよりどこにする関係」といえるでしょう。

おたがいが相手を「友だち」と思っているからこそ、そのつながりは「友だち」だといえるのです。

令和八年度 帝塚山中学校 一次A入学試験問題・国語 (その二)

なかには、自分ひとりが「友だち」だと思っていればそれでよく、相手の気持ちは気にしないという人もいるでしょう。

いずれにしても、「友だち」は「友だちである」という感覚に強く裏づけられた関係性なのです。

この点において友だちは、⁵ クラスメイトや先輩・後輩、上司・部下、先生・生徒といった関係と **A** に異なります。

これらの関係性はいずれも、環境や社会の役割に条件づけられています。クラスメイトであれば同じクラスという「環境」、部活の先輩・後輩であれば生まれた順番という「環境」、先生・生徒であれば教える側・習う側という「役割」に条件づけられています。

これらの関係性は、自らの気もちでかたてに交えることはできません。クラスメイトはクラスが変わらないかぎりクラスメイトですし、部活の先輩・後輩の関係は「一生交えることができません」。

一方、友だちは当事者の気のおもちようによって変わってしまいます。あなたが相手(もしくは相手があなた)のことを「友だちではない」と思った瞬間から、友だち関係は壊れてしまうのです。

この点は、友だち関係を考えるうえで決定的に重要です。

D 友だちは、その実態があいまいで、気もちに左右される関係です。**【 1 】** ふとしたときに壊れてしまう弱さをもっているのです。いま仲のよい友だちとずっと友だちでいつづけられる保証はどこにもありません。

昨今、友だちのつくり方や、友だちとの心地よい関係の築き方をテーマにした本をよく見かけます。

人とのうまくつき合い方や距離感を覚えるのは、たしかに重要でしょう。しかし、いくら人つき合いの方法を学んだとしても、仲のよい友だちと別れる瞬間が来ることはあります。

残念ながら、**X** 友だち関係とはそういうものなのです。

中学のころは親友だと思っていたけれど、すれ違ふようになってしまった。

別々の学校に進学したり就職したりしてから **【 2 】** 結婚したり子どもが生まれたりしてから、まったく意見が合わなくなりました。

そのようなことは友だち関係ではたびたびおこります。

順序づけのところで話したように、⁶ 友だち関係は一般的に「強い」ものと考えられがちです。そのようなイメージと裏腹に、友だち関係は、根本的にはとてももろく、あいまいなものなのです。

順序づけとあいまいさという友だち関係を特徴づけるふたつの要素は、友だち関係のむずかしさを、そのまま表しています。

たとえば、ある人が友だちかどうかは、厳密に言えば、当事者どうしがたがいに確認しなければわかりません。

この特性があるため、私たちはしばしば、「お気に入りの人が私を友だちと思ってくれているだろうか」という不安に直面します。

それならば確認すればよいのですが、「私たちが友だちだね」などというセリフはかんたんに口に出せません。

そのセリフしたいが気恥ずかしいですし、もし相手がそう思っていなかったら、とても **B** からです。

これはグループに入っていると同じです。

グループに入ったからといって、メンバーがあなたのことを友だちと認識しているとはかぎりません。

【 3 】 いま友だちであったとしても、その関係がその後もつづき保証はありません。そのため、現時点で友だちを確保していても、「この人とずっと友だちでいつづけられるか」という別の不安が生まれやすくなります。

さらに悪いことに、先ほどお話ししたように友だちには、序列づけを意識させられるという特徴があります。

そのため、友だちがいなくなると、どことなく見捨てられたような、人よりおとってしまったような感覚を抱かされるのです。

E ⁷ 「友だちがいなく」という不安を、「友だちをかんばんでつくる」ことで解消しようとしても、なかなか消えません。友だちという不安定な存在に安心を委ねているかぎり、根本的な問題の解決にはならないからです。

先にも述べたように、だれかとつねに良好な関係を築きつづけるのは、かなりむずかしいといわざるを得ません。

その点、結婚がすぐれているのは、友人関係と同様に、恋愛という不安定な感情に支えられている恋人関係に、制度的な安定と保証を与えたことです。婚姻関係は、本質的にのらさを抱える恋人関係に、「夫婦」という制度的保証を与えて、安定性を担保しているのです。

【 4 】 友だち関係に、そういった保証を与えてくれるシステムはありません。それならば、つながりのある人を「友だち」と「そうでない人」に無理に分けずに、⁸ みんな「知り合い」でよいのではないかと私は考えるのです。

かりに友だちがほしいのならば、あるつながりが「友だち」かどうかは、学校を卒業するまでつき合ってみて、あるいは、学校を卒業してから数年つき合ってみてから、ゆっくりと考えればよい。

「知り合い」としての交流を重ねて、振り返ったら「友だち」と感じていたくらいがちょうどよいのです。

【マンガ】



(石田光規『友だちがしんどいなくなる本』より)

※概念：物事についての考え。 ※担保：補うこと。

1 ——— 1 「親友」であれば、なおさら」とありますが、なおさら「どう」だということですか。本文から二十字以内で抜き出して答えなさい。

2 ——— 2 「ここにあげたようなこと」とありますが、本文の内容として適さないものを、次の中から一つ選んで答えなさい。

- A 「友だち」という言葉を使うと、相手と一生変わらない関係を保証してしまうこと。
- イ 「友だち」と「そのほか」の人を区別することで、人間関係に序列をつけてしまうこと。
- ウ 「友だち」であれば特別な扱いをしてくれるはずだと期待してしまい、そうでないと不満を抱くこと。
- E 「友だち」という言葉を使うと、自分の人間関係における位置がどう見られているかが気になってしまうこと。

3 ——— 3 「たちどころに『友だちではなくなる』ということはありません」と筆者が主張するのはなぜですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- A 友だちはお互いの信頼感が強いので、すれ違いがあってもその関係が壊れにくいから。
- イ 友だちは「気を遣わなくてよい」関係のため、多少よそよそしくても根本は揺らがないから。
- ウ 人の態度は状況や感情で変わるため、一度の不満で関係がすぐ切れるとは限らないから。
- E 友だちは他の人より特別に位置つけられるため、少しくらいの不満を持つても許されるから。

4 ——— 4 「友だち」と——— 5 「クラスメイト」との違いを筆者はどのように説明していますか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- A 友だちは気もちで変わってしまう関係であり、クラスメイトは相手への思いによって変えられる関係である。
- イ 友だちは自らの気もちで勝手に変えることができない関係であり、クラスメイトは同じクラスという「環境」によって決まる関係である。
- ウ 友だちは「環境」というあいまいな条件によって決まる関係であり、クラスメイトは相手を友だちと思うかどうかで変わってしまう関係である。
- E 友だちはおたがいの感覚をよりどこにする関係であり、クラスメイトは同じクラスという「環境」に条件つけられている関係である。

5 に入る語として最も適するものを、それぞれ次の中から選んで答えなさい。

- | | | | | |
|---|--------|--------|--------|----------|
| A | ア 相対的 | イ 制度的 | ウ 感情的 | E 決定的 |
| B | ア うれしい | イ 気まずい | ウ 興味深い | E まぎらわしい |

令和八年度 帝塚山中学校 一次A 入学試験問題・国語 (その四)

6 次の一文はどこに入れるのが適当ですか。Cの部分から探し、直前の七字をぬき出して答えなさい。

年齢は逆転しませんから。

7 【 1 】と【 4 】に入る語として最も適するものを、それぞれ次の中から選んで答えなさい。ただし、同じ記号は二度使えません。

ア しかも イ しかし ウ あるいは エ そのため オ さて

8 —— 6 「友だち関係は一般的に『強い』ものと考えられがち」とありますが、「一般的に『強い』とはどういうことだと筆者は考えていますか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 友だちはささいなことでも仲直りすることもあるから、一見弱いようではいて実は強固な関係であること。
- イ 友だちは当事者同士の思い込みで成り立っているため、一般的な考えと異なり合理的であるということ。
- ウ 友だちはゆるがぬ安心の材料であり、特別な扱いを受けられると期待できる、価値あるものであること。
- エ 友だちは双方の努力によっては永遠に続くこともあることから、ほかの関係よりも優れているということ。

9 —— 7 「『友だちがいない』という不安」とありますが、この不安がなくなる理由として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 友だちがいないという現実を、多くの知り合いとの付き合いの中で忘れてしまっているから。
- イ 友だちを一生懸命に作れば安心できるのに、多くの人は友だちを増やす努力を怠っているから。
- ウ 友だち関係は氣もちに左右される不安定なもので、たとえ今友だちがいても将来への不安は消えないから。
- エ 友だちは結婚や家族のように制度で保証されないため、不安からますます相手にしがみついてしまうから。

10 —— 8 「みんな『知り合い』でよい」と筆者が主張するのはなぜですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 友だちを作らず、人間関係を知り合いのレベルにとどめておけば、面倒な人付き合いを避けることができるようになるから。
- イ 友だちと知り合いを区別しなくてもよいと考えることで、不安にさらされず人付き合いを気楽にとらえることができるから。
- ウ 友だち関係は壊れやすいので、呼び名を広く「知り合い」にしておけば、関係が途切れても「最初から友だちではなかった」と考えられるから。
- エ 誰とでも自動的に友だちになれると考える楽観的な姿勢が、人付き合いを積極的に広げるためには有効だから。

11 本文全体の文章の進め方として、最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 学生に「友だちとは何か」をたずねたアンケートの結果を背景として、友だちが人間にとってどんなに大切かを中心に考えを展開している。
- イ はじめに「友だち」という言葉をあまり使わない理由を示し、その理由を二つ説明したあとで、友だち関係の弱さや不安定さについて話を広げている。
- ウ 友だちの良い点を具体的なデータを示しながら取り上げ、そのあとに悪い点を取り上げ、最後に二つの点をまとめる形で文章を終えている。
- エ 結婚という制度とのちがいを最初に取り上げ、その後も同じ内容をくり返ししながら、友だち関係の不安定さを強調している。

12 AとEの5人が、【マンガ】にある「あんまり絡んでいくのはヘン？」について、【本文】の内容に照らして意見を述べています。このうち【本文】の内容に合わないものを選び、AとEの記号で答えなさい。

- A クラスメイトというのは誰の目にもあきらかな関係だけど、友だち関係は主観的なものだから、難しいってことだね。
- B そうだね。この女の子が声を掛けることに戸惑うのは、友だちが客観的な保証のない関係である証拠だといえるね。
- C クラスが変わって相手がもう友だちと思っていないかもしれないから、絡んでいいのかわからなくて不安になるんだろうね。
- D それは考えすぎじゃないかな。一度仲よくなった友だちとはもう関係が成立してるんだから、絡んでも問題ないはずだよ。
- E でも実際には、親友と思っても別れることがあるんだから、この女の子が距離を気にするのは自然だと思うな。

令和八年度 帝塚山中学校 一次A入学試験問題・国語 (その五)

13 〓 X「友だち関係とはそういうもの」とありますが、どういうことですか。「友だち関係は」に続くように、五十文字以内で説明しなさい。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「識字クラスの授業を見るのは、初めて?」

問われて、さやかは深く頷く。そして江口先生に、教室の窓際に座る老女をそっと指し示した。

*八十路近い女性が、A にプリントの「あ」という文字をなぞっている。

「あひと……あの生徒さんは、私の祖母と同じ年くらいやと思います。けど、字が読めへんで……書けへんで……」

あとは言葉にならず、言い淀む。

戦争や貧困や病などで学校に行けなかった——そういう事情は見聞きして、充分に知っているつもりだった。

けれど、まさか……。

声を失し、棒立ちになるさやかに、教諭は、

「これが、現実なんよ」

と、1 平らかに告げた。

教室では、生徒たちが各々、プリントと格闘している。その授業風景に目を向けたまま、江口先生は2 声を落として、こう続ける。

「文字を読めない、書けない——そのことが、あの人たちに、どれほどの過酷な人生を強いたのか。考えてみてね」

あ・お・そ・ら

あ・お・そ・ら

再び、音読の音が廊下まで流れてきた。

「すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。憲法二十六条では、このように」

社会科の教科書を、担当教師の田宮がゆつくりと読み上げている。

二年三組の生徒たちは、教科書を目で追い、時々小さな声で唱和しつつ、「教育を受ける権利」について学んでいく。

あ・お・そ・ら

3 耳の奥には、先刻の識字クラスの生徒たちの声がこびりついて、消えることがない。さやかは教科書から視線を外し、そこを周囲を見回した。

*中国残留孤児だった鶴子、*在日の正子、ハルモニ、ほかにも戦禍や貧しさのため、学齢期に学校に行けなかったひとたち。

今、当たり前のように机を並べているけれど、皆、識字から……あそこからスタートしたのだろうか。

国語、英語、数学、社会、理科。

中学で学ぶ五教科全てを、識字から始めて身に付けようとするなら、どれほどの根気と努力が必要なことか。

それでも学びたい、と思うのは何故だろう。その熱意は何処から生まれるのか。考えても、考えても、さやかにはわからなかった。

「先生、今日もありがとうございました」

「はい、お疲れさま。気を付けて帰ってくださいね」

午後九時過ぎ、無事に授業を終え、夜間中学の生徒たちは、疲れながらも晴れやかな顔つきで校門を出ていく。

そのまま夜勤の仕事に向かう者も居れば、家路につく者も居る。さやかは、遠見と正子ハルモニ、車椅子の介助者として駅へと向かっていた。

「そうか、江口先生とそないな話をな」

吐息交じりに、遠見は呟く。

何処となく元気がないさやかを気遣い、遠見から何かあったか、と問われた。思い切って4 スアンを迎えにいった先で見た光景、江口先生とのやり取りを打ち明けたさやかであった。

「わしも正子ハルモニも、識字から始めたよって、そらあ、大変やった。最初に教わったんが『つ』『く』『し』やったから、まだ何とか

令和八年度 帝塚山中学校 一次A入学試験問題・国語 (その七)

* 女工から始めて、働きに働いてねえ、と正子ハルモニは自身の手に見え、変形した指の関節、節が高く、長年の苦勞が刻まれた手だった。

さやかは相手の目の高さよりも低くなるよう、車椅子の傍らに腰を落とした。

正子ハルモニは、【 Ⅲ 】続ける。

「読み書きを見えなくても、『お前に字いなんて要らん。働け』と。皆、そない言うてねえ。7 一週も学校へ行かせてもらわれへんかった。戦争が終わって、縁あって結婚し、家族にも思われた。

「字い知らんでも、生きてはける。けどねえ、子どもの通簿もよう読んでやれんかったんよ。娘の不思議そうな、悲しそうな顔は、何十年経ったか、忘れられへん」

当時を思い出すのか、8 老女の声が湿りけを帯びていた。

「字を知らんから、何週も働かれて。家も財産も全部、持っていかれたこともあったわ」 2

今なら相談する窓口もあるだろうが、当時は泣き寝入りするほかなかったのだという。

「そんな…：ひどい…」

かける言葉も見つからず、さやかは声を失するよりなかった。

友の受けた理不尽を我が身に置き換え、俯くばかりのさやかに、正子ハルモニはそつと手を差し伸べる。

「せやけどねえ、さやかちゃん」

友の皺だらけの手が、さやかの手をそつと握った。

「夜間中学で手に入れた文字は、もう誰も私から奪うことはできへんの」 3

ホームに、電車が到着する合図の音楽が流れて来た。

「お待たせして済みません」

詫ながら、介助者が車椅子に駆け寄る。

「はな、さやかちゃん、お休み。また明日、学校でね」 4

掌にくつと力を込めてから、正子ハルモニは、さやかの手を放した。

介助者と車椅子の同級生が乗車した電車が、ホームを滑り出る。遠ざかって闇に紛れたあとも、さやかはホームに佇んでいた。

友の温もりが、握る手に込められた力が、またさやかの掌に残る。

学校はおろか、文字さえも与えられなかった正子ハルモニ。

何もかも与えられながら、それを当然としか思わなかった自分。

——夜間中学で手に入れた文字は、もう誰も私から奪うことはできへんの

あ、お、ぞ、ら

正子ハルモニの言葉に、識字クラスの授業風景が重なる。

ああ、とさやかは思う。

ああ、そうか、と。

『学び』とは、誰にも奪われないものを自分の中に蓄える、ということなのか。

誰のためでもない、自分のために。

自分の人生のために。

「強いなあ、強いわ、ほんまに」

思わず、声に出していた。

それに比べて、9 自分は何と「あかんたれ」なんやろか。

血を吐く思いで自身の中に蓄えたものなど、何一つないように思う。全て、当然のものとして受け取ってきた。

強くありたい。強くなりたい。

正子ハルモニの感触が宿る掌を、さやかはくつと拳に握りしめていた。

(高田郁『星の教室』より)

※識字：文字の読み書き。

※八十路：八十歳。

※唱和：声を合わせて読むこと。

※中国残留孤児：太平洋戦争時、中国東北地方に取り残され中国人に育てられた日本人の子。

※在日：在日韓国人・朝鮮人のこと。

※ハルモニ：朝鮮語で「おばあさん」の意。

※戦禍：戦争によって起こる混乱。

※林立：多くのものが並び立つこと。

※女工：工場で働く女子労働者。

令和八年度 帝塚山中学校 一次A入学試験問題・国語 (その八)

1 Aには、「ほかのことを考えず、集中するさま」を意味する「□」で始まる四字熟語が入ります。次の選字の中から三字を使って、適する言葉を書きなさい。

心 身 進 体 退 生 乱 同 未 不

2 □ 1「平らかに告げた」とはどんな様子を表していますか。最も適するものを、次の中から選んで書きなさい。

- ア 学校はどんな生徒に対しても、公平に学ぶ機会を与えていることを伝える様子。
- イ 分かったつもりでいたさやかに、実情を理解させるために冷たく言い放つ様子。
- ウ 自分たちにとっては日常のことなので、さやかな驚きようが理解できない様子。
- エ 激しく動揺しているさやかが落ち着くよう、おだやかに静かに声をかける様子。

3 □ 2「声を落とし」は「小声で話す」様子を表す慣用句です。このほかに「□を落とし」という慣用句として、空らん□に当てはまらないものを、次から一つ選んで書きなさい。

- ア 額ぬか
- イ 肩かた
- ウ 目
- エ 影かげ

4 □ 3「耳の奥には、先刻の識字クラスの生徒たちの声がかびりついて、消えることがない」とはどういうことですか。最も適するものを、次の中から選んで書きなさい。

- ア 自分の身近なところにも戦争や貧困の影響が及んでいることを実感し、その人たちを救うために自分にできることは何かを考えているということ。
- イ 無意識のうちに自分も「あ・お・ぞ・ら」とつぶやいてしまうほど、単純ではあるが基本的で素敵なひびきの言葉として身にしみているということ。
- ウ 先生の言葉によって、ひらがなの読み書きもできなかった人たちが、どれほど苦勞して生活し、勉強を続けているのかを意識し始めたということ。
- エ 一年前は自分もひらがなを学んでいたが、二年生になって魔法の授業を受けられるまでに字力が伸びたという喜びをかみしめているということ。

5 □ 4「スアンを迎えにいった先で見た光景」とは、何ですか。次の空らんの条件に合うように、本文からそれぞれぬき出して書きなさい。

(a 五字) の (b 四字) 。

6 □ 5「ゼロから始めてここまで来る」とはどういうことですか。次の空らんに適する二十三字の表現を、□ 5より前の本文から探し、初めと終わりの五字をぬき出して書きなさい。

選見が (□ 二十三字) ようとしていること。

7 □ 6「私は眼鏡やつた」とはどういうことですか。次の空らんの条件に合うように、本文からそれぞれぬき出して書きなさい。

(a 七字) ことに気づかれずに (b 十字) ため、(c 八字) をしていたということ。

8 □ I □ III に入る言葉として最も適するものを、それぞれ次から選んで書きなさい。ただし、同じ記号は二度使えません。

- ア 淡々と
- イ ありありと
- ウ ふわりと
- エ ぐらりと

9 □ 7「一週も学校へ行かせてもらわれへんかった」とはどういうことを意味しますか。次の空らんの条件に合うように、本文からぬき出して書きなさい。

(□ 八字) をらばわれたということ。

令和八年度 帝塚山中学校 一次A 入学試験問題・国語 (その九)

10 ——— 8 「老女の声が湿りけを帯びていた」について答えなさい。

(1) 用いられている表現の技法として、最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 倒置 イ 比喩 ウ 省略 エ 対句

(2) どういうことを表していますか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア つらいことはたくさんあったが、結婚し家族にも恵まれた幸せを、しみじみとかみしめているということ。
- イ 文字を知らなくても生きていけることを身をもって示した、という自信をひそかに持っているということ。
- ウ 読み書きができないことで子どもを悲しませていた後ろめたさは、年を取った今でも消えないということ。
- エ 当時は理不尽な扱いを受けてもがまんするしかなかったが、何十年経っても怒りは取まらないということ。

11 次の一文はどこに入れるのが適当ですか。文中の 1、4 から選んで答えなさい。

正子ハルモ二の一言に、さやかは不意を突かれる。

12 ——— 9 「自分は何と『あかんたれ』なんやるか」とはどういうことですか。次の空らん の条件に合うように答えなさい。

夜間中学の仲間たちには（ 四十字以上五十字以内 ）のような強さがあるが、自分には無かったということ。

13 本文の表現について説明したものとして、正しいものにはA、誤っているものにはBと答えなさい。

- ア 「……」のような記号には、言葉にできないような衝撃や混乱があったことを感じさせる働きがある。
- イ 学校に関係する言葉を意識的に用いて、読者にも勉強することの大切さと楽しさを思いつかせている。
- ウ 長文と短文が巧みに組み合わせられることで、出来事の因果関係が論理的に書かれていることが分かる。
- エ 会話を方言にすることで、読者に親しみを感じさせ、関西ならではの制度や習慣を印象づけている。
- オ さやかの心中は地の文に書き表されているので、主人公の心情変化をたどって読み進めることができる。

三 次の1～10の——部のカタカナを漢字に、11～15の——部の漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 この地域の役員はリンバンで務める決まりになっている。
- 2 病院の建て替かえに必要な費用をシサンする。
- 3 セイトウの代表者が、国民生活をよりよくするための話し合いを持った。
- 4 母は、中庭のサイエンでトマトを育てている。
- 5 久しぶりに帰ってきた弟は、両親にこれまでのフコウをわびた。
- 6 ニュージラランドでは、ボクヨウが盛んに行なわれている。
- 7 彼は、シタの根も乾かぬうちに別のことを言い出した。
- 8 父は長年のコウセキが認められ、社長から表彰された。
- 9 今年の春は、友人とアジアのシヨコグを訪れる予定だ。
- 10 私の住んでいる町は、駅前だけがサカえている。
- 11 交通ルールを守る大切さを、寸劇で伝えることにした。
- 12 落語は、日本の伝統的な話芸の一つである。
- 13 昔の彼は短気だったが、年を重ねてすっかり角が取れて別人のようだ。
- 14 日本のアニメーションは、世界中で人気を博している。
- 15 ロボットをうまく使うことで、多くの人手を省けるはずだ。

令和8年度 帝塚山中学校
1次A入学試験問題・国語 解答用紙

受験番号

ここにシールを貼ってください



261110

二

6	5	3	1
	a		一
		4	
			2
	b		

一

友だち関係は、

13	8	7	5	2	1
		1	A		
	9	2	B	3	
	10	3	6	4	
		4			
	11				
	12				

三

13	9	5	1
	シヨコク	フコウ	リンバン
14	10	6	2
して	サカ	ボクヨウ	シサン
15	11	7	3
ける		シタ	セイトウ
	12	8	4
		コウセキ	サイエン

13	12	10	9	8	7
ア		(1)		I	c
イ		(2)		II	b
ウ				III	a
エ		11			
オ					

令和8年度 帝塚山中学校
1次A入学試験問題・国語 解答用紙

受験番号

ここにシールを貼ってください



261110

二

6	5	3	1
中学で学ぶ	a 識字クラス	ア	一心不乱
て身に付け	b 授業風景	ウ	エ

一

13	8	7	5	2	1
友だち関係は、	ウ	1 エ	A エ	ア	け
。	ウ	2 ウ	B イ	ア	ら
弱さを	ウ	3 ア	6 が	ア	れ
もつ	イ	4 イ	でき	ア	る
関係	イ	6	ません	エ	る
であ	11 イ	12	。		る
ると	12	D			る
いと					る
うこ					る
と					る

三

13	9	5	1
かど	諸国	不孝	輪番
はくして	栄	牧羊	試算
はぶける	すんげき	舌	政党
	わげい	功績	菜園

7

13	12	10	9	8	7
ア	自分の人生のために、誰にも奪わ	(1) イ	教育を受ける権利	I イ	a 文字を読めない
A	と、血を吐く思いで学	(2) ウ	教育を受ける権利	II エ	b 代わりに読んでもらう
イ	る	3	教育を受ける権利	III ア	c 眼鏡を忘れた振り
B	と、血を吐く思いで学				
ウ	る				
B	と、血を吐く思いで学				
エ	る				
B	と、血を吐く思いで学				
オ	る				
A	と、血を吐く思いで学				